

## ビ・エー B.Aリサーチセンター開設記念 最先端科学シンポジウムを開催 アンチエイジング研究の未来を探る

ポーラ・オルビスグループのポーラ化成工業株式会社（本社：神奈川県横浜市、社長：三浦卓士）は、2015年9月3日にアンチエイジング分野で先進的な研究を進めておられる3名の先生方をお招きし、「B.Aリサーチセンター開設記念 最先端科学シンポジウム」を開催致しました。

当社では今後も先端研究に取り組む先生方とのリレーションを強化し、B.Aリサーチセンターが目指す「生命美<sup>\*</sup>」を具現化すべく、総合的なアンチエイジング研究を進めてまいります。

\*）生命美：肌のみならず、生命活動そのものが輝いている状態

### 講演概要

本年4月に発足した「B.Aリサーチセンター」では、全ての女性が、肌だけではなく、生命活動そのものが美しく輝く状態を獲得することを目指して、様々な活動を進めています。

「人」そのものを中心に据えたアンチエイジング研究を推進していくため、社内外のアライアンスの活性化に取り組んでおり、今回、この一環として今後のアンチエイジング研究の新しい手掛かりを掴むべく、下記の3名の先生方をお招きし、シンポジウムを開催致しました。



ご講演頂いた先生方（前列左から、中田先生、Ruenger 博士、山崎先生）と、B.Aリサーチセンターメンバー（後列）

### ◆中田 和人教授（筑波大学大学院 生命環境科学）

演題：細胞の老化「ミトコンドリアセントラルドグマの生理と破綻病理」

概要：細胞内の発電所と言われるミトコンドリアの遺伝変異の研究を通じた、老化した細胞にも通じる現象の解明とその改善策への提言

### ◆Thomas M. Ruenger 博士（ロジャウリアス メディカルセンター皮膚科、ホストン大学医学部皮膚科）

演題：光老化は何故可逆的でないのか？それとも可逆的になりえるのか？

概要：2つの新しい光老化メカニズム(カテプシンKの関与、プロジェリンの関与)と、光老化に関与するRNAの役割について紹介し、これら機序からアンチエイジングへの可能性を探る

### ◆山崎 研志准教授（東北大学大学院医学系研究科皮膚科学）

演題：ヒト間葉系組織からのMUSE細胞同定と機能的色素細胞の誘導

概要：ヒト組織内にはMUSE細胞と言われる多能性を有する細胞が存在しており、このMUSE細胞の有用性と安全性の高い再生医療への応用可能性を探る

### 今後の展望

今回のシンポジウムは、「生命美」を中心におき、エネルギー代謝、細胞浄化、多能性幹細胞といった生命の根源に関わる最先端の研究成果をご講演頂き、新たな視点でアンチエイジングを捉える良い機会となりました。

当社では今後も先端研究に取り組む先生方との連携を強化し、生化学分野に限らず、幅広い観点からアンチエイジングを捉えていき、B.Aリサーチセンターが目指す「生命美」を具現化すべく、総合的に研究を進めてまいります。